

■韓国：「第9次電力需給基本計画」草案の概要が明らかに

2020年5月8日付の報道によると、「第9次電力需給基本計画」（2020～2034年）策定に関する諮問委員会はこのほど、その草案の概要を明らかにした。それによると、2034年までに運開後30年以上が経過する老朽化石炭火力30基（出力合計1,530万kW）をすべて廃止し、そのうち24基（同1,270万kW）はガス火力に転換するとしている。また、原子力については、2024年の26基（同2,730万kW）をピークに、段階的に廃止を進め、2034年には17基（1,940万kW）にまで減少させるとしている。これにより、石炭火力と原子力とを加えた発電電力量シェアは2020年の46.3%から2034年には24.8%に減少するが、再エネ発電電力のシェアを同期間中に15.1%から40.0%に引き上げて充当することとしている。なお、同計画の最終案は今後、環境部の戦略環境影響評価などを経て、正式決定される予定である。